

2022年活動スローガン「ありがとう40年 愛の種まき 今年もやります チャリティバザー」

報 告

2021年10月～12月支援分

〈バングラデシュ〉

●トイレ寄付

- ・吉岡明美様よりカバシア郡の学校にトイレを1基
- ・染屋夏子様よりカバシア郡の学校にトイレを1基
- ・会員有志の方よりカバシア郡の学校にトイレを3基

〈国内活動〉

●「あおぞら食堂エンゼル」(子ども食堂)

- ・公益財団法人オリックス宮内財団より運営資金として245,000円寄付
- ・佐賀県のNPO法人「POSA」の井上望氏より食材の寄付
- ・会員有志の方よりみかんの寄付

- 12月に大阪のJR天王寺駅前で街頭募金を行いました。多くの方々にご協力いただきありがとうございました。

〈お知らせ〉

●会員総会 3月8日(火) 13:30～

会員の方には後日案内をお送りしますのでご出席してくださいようお願いいたします。

イベント情報

4/6
(水)

春のチャリティバザー

場所: 本協会ボランティアセンター(伊丹市)
時間: 10:00～14:00



●チャリティバザーにご協力ください●

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、シーツ、タオル、衣料、食料品、石鹸、カバン、おもちゃなどいつでも受け付けています。ご近所でしたら引き取りに伺います。事務所までご連絡下さい。

☆取り扱っていないもの☆ 家具、布団、電化製品、自転車、使用済み食器等

ご家庭に眠っている未使用の切手やハガキ等ございましたら是非ご寄付ください。いただきました切手やハガキは当協会運営の一部に充てさせていただきます。

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円
特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替でお送り下さい。
郵便自動払込方法も受付ています。

郵便振替・口座番号
01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力もよろしくお願いいたします。

会員数: 一般会員 644名
DCEF会員 621名
(1月1日現在)

バングラデシュ支援35周年記念式典が開催されました

新型コロナウイルスの影響により2020年に予定していましたが、2021年12月4日に日本とバングラデシュをオンラインで結び開催され、これまで35年にわたり日本とバングラデシュ共に歩んできたことをお祝いしました。



編集後記

最近、SDGsという言葉をよく耳にしますが、関心はあってもなかなか身近に感じる事ができませんでした。自分ができることを調べてみると、電気や水道を節約したり、食品ロスを減らしたり、使わないものは寄付したりまたマイカップを持ち歩いたり当たり前のようで意識しないとできないことがいろいろありました。毎日の暮らしの中の小さな行動を見直すことが豊かな未来へと繋がるのかもしれない。今年は「誰かがしてくれる」ではなく、一つひとつを「自分のこと」として、取り組んでいきたいです。

2022年 行事予定

1月現在

4月	6日(水)	春のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
6月	5日(日)	楽しいボランティアひろば	本協会ボランティアセンター	伊丹市
9月	23日(金)	国際エンゼル協会創立40周年記念式典	伊丹アイフォニックホール	伊丹市
10月	19日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp

ANGEL NEWS

通巻198号
2022.01

謹賀新年

40th
anniversary

ありがとう40周年



ボランティアセンターにて

明けましておめでとうございます。皆様お健やかに新年をお迎えになられたことと存じます。

1982年に「世界に愛を」のスローガンを掲げて発足した本協会も皆様方の温かいご支援に支えられて早いもので今年で40年目を迎えることが出来ました。当初より創設者の意思に従い、一貫して貧しい国々の、その中でも恵まれない人々に支援の手を差し述べて参りました。特に海外支援の中でもバングラデシュのプロジェクトに主力を注いできました。

エンゼルホームの子ども達や研修生、奨学金を受けてきた学生さん達は「国際エンゼル協会の支援をいただいたから学校にも行くことが出来ました。そして、今は就職し家族や兄弟達も助けることが出来るようになりました。私の人生を変えてくださった日本のみなさんに感謝します」と話してくれます。私達はそのように導いてあげることに大きな喜びを感じます。そしてまたボランティア活動を通して本当に望んでいるのは物ではなく心であることに気づかせていただきました。支援にあたって多くの方の真心をいっぱいいただき、そしてバングラデシュの人達の優しい心に触れ、私の人生も豊かにしていただいています。人は誰かの役に立ちたいと願っていて、そして誰かの役に立つとき一番輝きます。ボランティアの皆さんが今まで続けてくださっていること、底抜けに明るい笑顔こそ、ここにあるのではないのでしょうか。

40年の間に日本も、世界も、自分も変わりました。色々なことがありました。しかしお一人おひとりの小さくも温かい心が集まれば大きな実をつけることが出来ます。ただ支援するだけでなく私達の心も豊かにさせていただいています。これからも「共に助け合い、共に分かち合い、共に生きる」支援活動をずっと続けていきたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

代表理事 東村 真理子

チャリティバザー ちょっと深い話

チャリティバザーのご協力ありがとうございます

国際エンゼル協会ではバングラデシュなど発展途上国の子ども達の教育支援や農村女性の自立支援のため、毎年春と秋にチャリティバザーを開催しています。また、各地で小規模のチャリティバザーも活発に行われており、1年を通じて品物を集めています。皆様に支えられて今年で40年、その間にバザーにまつわる色々な出来事がありました。最近のうれしいエピソードをご紹介します。

どうぞバザーに使って下さい

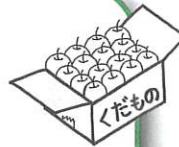


いつもご協力ありがとうございます

このような応援のおかげで
40年も活動を続けられています！

日本各地から届く地元の名産品

北海道から九州まで、日本各地の会員の方々がその土地の名産品など送って下さっています。先日、送ってくださった品物の中に「遠くてなかなかお手伝いにいけないけれど、いつも応援しています。皆さんがんばって下さいね！」とメッセージが添えられていました。「遠く離れていても思いは一つ」とつながりを感じながら、支援活動に励んでいます。



商売抜きで箱いっぱいの商品を下さるので
店主さんの気前の良さに嬉しくなります。

お店の人からの応援

四日市の会員さん達が毎回海産物や日用品を送って下さいます。ある時、海産物屋でみんなでわいわいとしゃべりながらバザー用に送る品物を選んでいると「何をされているのですか？」と店主に話しかけられたそうです。そこでバザーのために品物を選んでいることを話したところ「それはとても素晴らしい！ぜひ私達からも何か寄付させてください」と、選んだ物の他にもたくさんの珍しい品を寄付してくださいました。



おしゃれなデザインのキッチン用品が
届くといつもワクワクします。

企業からの支援とSDGs

滋賀県にある企業よりバザーの品物にと日用雑貨の商品がたくさん届きます。その企業には社会貢献の為の部署があり、品物を提供して下さっています。品物のお礼として報告しているチャリティバザーの写真やバングラデシュの様子は社内報に載せ、社員の皆さんで共有されているそうです。企業と協力して進めていくこうした活動はバングラデシュへの支援に加えて、SDGs目標12「つくる責任 つかう責任」の達成にも役立っています。



バザーで広がる協力の輪

毎年春と秋のチャリティバザー以外に各地でバザーを開催しています。その度に周辺の方へ品物提供のお願いに回っていると、「私も一緒に協力するわ」とご近所さんや友人に声を掛けて品物を集めて下さる方がおられました。「何人かの友達に頼んだら色々持ってきてくれたんですよ。少しでもお役に立てたらうれしいです」そう言って、バザーの度にいつも寄付していただいています。



「いい物たくさん集めて置いてるからね」
そんな電話がかかると力が湧いてきます。

優しい方との出会い

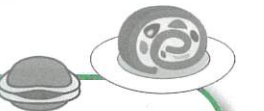
チャリティバザーのチラシをあるマンションでポスティングしていた時のことです。半分ほど配った時に住人の女性から声をかけられました。「ポストにチラシを入れないで」と怒られるのかなと思ってびくびくしながら返事をする「またバザーがあるのですか？ずっと楽しみにしていたのですよ」「これ、以前バザーで買ってとても気に入って使っています」とノキシカタのポーチを見せてくださいました。地域の方にも愛されていると感じ、より一層の励みとなりました。



チラシお断り！という張り紙を見ることが
多いこの頃ですがその時はほっとしました。

真心こもったケーキや和菓子

毎回チャリティバザーの度にケーキを作って寄付して下さる洋菓子店の店主さんは、バザー用にと普段販売していない種類のケーキを特別に作って寄付して下さっています。また、和菓子店の店主さんは営業時間後にたくさんの和菓子を作り、バザー前日の夜に届けて下さいます。「皆さんにおいしかったと喜んでもらえたら私達もそれが一番嬉しいですよ」と笑っておられました。



心を込めて作って下さったケーキや和菓子は
見た目もステキで嬉しくなります！